

平成 27 年度 恵那市総合教育会議（第 3 回）

□日時 平成 28 年 1 月 22 日（金）16：00～16：30

□場所 恵那市役所西庁舎 4A 会議室

□次第

（進行：まちづくり推進部次長）

1. 開会

2. 会議の公開について

3. 議題

①恵那市教育大綱について【審議事項】

4. 閉会

□出席構成員 6 名

可知 義明（市長）、鎌田 基予子（教育委員長）、井口 道雄（教育委員）、

西尾 修欣（教育委員）、村松 訓子（教育委員）、大畑 雅幸（教育委員（教育長））

□議事録

1. 開会

■事務局（進行） 平成 27 年度 第 3 回 恵那市総合教育会議を始める。開会に当たり市長から挨拶をいただく。

■市長 先般の成人式では、教育委員の皆様にも出席いただきお礼を申し上げます。おかげで恵那市の成人式は厳粛でなごやかに行えた。実行委員会で企画・開催するようになってから、「自分たちの成人式」という位置付けになってきたと思う。

1 月 14 日に「恵那南高校と地域」という講演会があった。明智のかえでホールに 600 人近い人が来ており、あれだけの人が入ったのを初めて見た。それほど関心が大きかったということだ。ぜひ高校の存続に向けて考えてほしいと思う。

恵那市の人口の話をする。広報えな 1 月 15 日号に、昨年 10 月に行った国勢調査の速報値を掲載した。恵那市は 5 万 1,086 人で、5 年前の平成 22 年から△2,632 人（4.9%減）だった。旧恵那地域が△1,119 人（3.23%減）、恵南地域が△1,513 人（7.94%減）と、極端に恵南地域で減っている。そのことが直接南高校の定員割れにつながっているかどうかは言えないが、特に明智・山岡・上矢作の人口減が大きく、そういう地域の中にある学校なので、悪循環になっているように感じる。南高校を何としても残さないと、どんどん過疎化が進行し若者が定着しなくなる可能性がある。その地域で働く人をその学校で育ててもらおうという視点でないと、定住対策にならない。平成 28 年度からの市の総合計画の柱が人口減少対策だ。それについての施策をしっかりとやる。小学校の入学児童数を 450 人確保する。それが一番大きな目標だ。

ここ 20 年以上、毎年東濃牧場で初日の出を見ている。今年はすばらしい初日の出だった。さんさんと輝いて、太陽ってあんなものかと思った。光だけでなく温かみがある。新しい総合計画の将来像は、「人・地域・自然が輝く交流都市」。元旦の太陽が輝いていたので、輝くような年にならないかと願った。佐藤一斎が言志四録で言っている、「青天白日は、常に我にあり」。外からのすばらしいものに頼るのではなく、自分の心の中に希望をもって進めという教えだと思う。常に自分たちが青天白日を心に秘め、それを希望にしてまちをつくっていくという教えだと思う。

今日は第 3 回恵那市総合教育会議だ。恵那市の教育大綱を定める、それが議題になる。本日開催された教育委員会定例会では、恵那市教育振興基本計画を策定していただいたと聞いている。私はそれを大綱にしてもらいたいという考えだ。審議をお願いしたい。恵那市では、教育振興基本計画も教育大綱も初めて制定するものである。皆さんと私とでしっかり協議して定め、恵那市にふさわしい教育大綱にしたい。

■事務局（進行） 教育委員長から挨拶をいただく。

■教育委員長 昨年 12 月 16 日付けで教育委員長を拝命した。教育委員の任期は 4 年なので、最後の年にこのような大役を仰せつかり身の引き締まる思いだ。これまでの 3 年を振り返ると、教育長、他の委員、事務局の皆さんに支えられ、常に恵那市の子どもを思い浮かべながら、みんなで同じ方向を向いて教育行政に取り組んでこられた

と思っている。その思いを引き継いでチームワークよくやっていきたい。よろしくお願ひする。

2. 会議の公開について

■事務局（進行） この会議は公開で進める。

3. 議題

① 恵那市教育大綱について【審議事項】

■事務局（進行） まず、これまでの経緯と教育委員会で策定した教育振興基本計画について説明する。

【事務局から資料に基づき説明】

■事務局（進行） 新しい教育振興基本計画の概要を説明した。総合計画と連携を取りながら定めてきたという説明だった。市長からは、教育振興基本計画を大綱としたいというご意見があった。教育委員はどう考えるか。

■市長 ポイントは、「市の総合計画の流れにしっかり沿っているか」ということと、「三学のまちにも対応しているか」ということだ。恵那市は生涯学習都市宣言を平成 23 年 4 月に行った。恵那市教育振興計画は、それに則った計画であり、これは大綱にしていくべきだと考えている。

■教育委員長 教育振興基本計画策定のと時から第 2 次恵那市総合計画との整合性を鑑み、総合計画を尊重してこの計画を作ったことを承知している。これを大綱としたい。

■井口委員 教育振興基本計画を定めるのは教育委員会で、それを総合教育会議で協議調整した場合は、教育大綱とすることができるということ。教育委員会定例会でも言ったが、恵那市にはいろいろな行政用語があり、私も理解不足だ。市民憲章があり、様々な宣言、生涯学習都市宣言や健幸都市宣言などがある。教育大綱は宣言の下に来るのか。恵那市総合計画と同列なのか。総合計画の中の教育分野の一つなのか。

■事務局（進行） 恵那市としてのまちづくりの一番の基本は総合計画だ。ただ、総合計画を定めるときには都市宣言、三学や健幸都市宣言を踏まえ、まちづくりの分野の中で目指す方向を表現している。個別計画は、個別分野の指針になる。

■井口委員 総合計画の中の教育分野が教育振興基本計画や教育大綱にあたるということか。

■事務局（進行） そうである。

■市長 市民憲章は、恵那市民が目指すところの志だ。

■事務局 憲章というのは、地方公共団体として、恵那市民としての志である。憲章・宣言には年限がなく、恵那市という自治体としての将来像を描いている。一方、総合計画は一つの構想であり 10 年スパンで策定している。総合計画は年次を切った中の理念でありまちづくりの方向性だ。大綱も同様に年次を切っており、その年次内での理念、方向性をうたっている。

■市長 分野毎の、例えば福祉計画などいろいろあるが、教育大綱も同じように考えてほ

しい。

■西尾委員 教育委員会定例会のたびにこの計画案を何度も見てきた。策定委員会で何度も会議をしてできたものであり、我々も重箱の隅をつつくように隅々まで確認し、定例会で指摘してきている。いいものができあがったと感じる。恵那市の教育が目指す芯になり得る。

■村松委員 前回の教育委員会定例会から、言葉の一つ一つの修正案も全部取り入れていただき新しくいいものになっている。「主体性、社会性、郷土愛」というように郷土愛を入れたが、それがこれからの課題だと思うのですばらしい。

■事務局（進行） 各委員とも、教育委員会で決めた教育振興基本計画なので、これを市長のほうで大綱としてほしいというご意見であるし、市長としてもこれを教育大綱として進めたいということなので、教育大綱として良いか。

■市長 第2次総合計画との整合性、恵那市三学のまち推進計画、スポーツ推進計画、第2次子どもの読書活動推進計画、そういうのとうまく整合性を取っていただいている。恵那市の教育大綱にふさわしい計画だと思う。

■教育長 私は教育長を拝命するとき、前任から、教育振興基本計画を策定せよということと、恵那市の基本には生涯学習があるのでこれを大事にしろという引き継ぎを受けた。恵那市らしい基本計画ができ、これはまさに恵那市が進めようとしているまちづくりにピタッと合うと自信を持っている。

若干くだけた話になるが、この正月に高校の同窓会に行った。自分たちの世代は子どもたちが結婚し、中には孫もできる頃だ。恵那に留まっているものに聞くと、子どもたちの多くは、大学進学で出ていったきり戻ってこないということだ。

恵那市の良さを伝えるだけでなく、学校教育や地域の支援をお願いしながら、中高生の時期、都会に学びに出る前に、自身の人生設計を組み立ててほしい。恵那市に留まる、あるいは一旦は出るが戻って、自分の生きる道を恵那でという人が増えるような学校教育を行っていききたい。

併せて、市内の3つの高校とは、地域との結びつきを強くして活躍の場面を増やすと共に、子どもが支援できる部分をもっと太くして関係をもっていきたい。そういうところで、生徒たちの心にそういうものをぐっと大きく根付かせたい。

■市長 皆さんに同意していただいたので、ここに恵那市教育振興基本計画を恵那市教育大綱とすることで良いか。

[全会一致で賛成]

■事務局（進行） 以上を持って、恵那市教育振興基本計画を恵那市教育大綱と定めることで承認された。

4. 閉会